

美術の技法・材料に関する広領域的研究 (①美03-09-4/5)

目 的

本研究は文化財にかかわる諸分野との提携による作品の多角的研究を目指す。具体的には作品を構成する材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日にまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたかなどを、関係の文献史料や、あるいは作品そのものに対する科学的分析（X線撮影など）を援用しながら解明し、文化財についてより深く考究していくことを目的としている。

成 果

1) 作品・関係資料の調査・研究：本年度は以下の作品・関係資料の調査を行った。

ア) 高円寺蔵脱活乾漆像の調査

イ) ポートランド美術館（アメリカ）所蔵作品の基礎調査

2) 彩色関係データ（語彙・史料編）の集積とホームページによる公開

美術工芸品の彩色を考えるうえで史料上にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に、彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積を行った。集積に際しては公刊史料（活字本）をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出につとめ、分類し、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新に努めた。

(3) 寄贈資料の整理

前年度までに寄贈を受けた資料のうち、技法材料研究ととくに関わりの深い久野健旧蔵資料および秋山光和旧蔵資料の整理に着手した。

(4) 研究会の開催等

2009年9月から2010年2月にかけて、東京文化財研究所エントランスロビーにてX線透過撮影による仏像の調査研究について、その成果の一端をパネル展示した。

研究会（2009年4月22日、綿田稔「福岡城本丸御殿の雲谷派障子絵について」／2010年2月12日、清水重敦〔奈良文化財研究所〕「近代京都画壇と家：近代における和風建築の表現と画家の役割」、コメンテーター：小倉実子（京都国立近代美術館）・田中修二（大分大学）／2010年3月24日、江村知子・土屋貴裕・綿田稔「ポートランド美術館所蔵作品調査報告」）を開催した。

関連論文・発表等 5件

- ・津田徹英「研究資料 脱活乾漆造 菩薩立像」『美術研究』398 pp. 82-89 09.8
- ・綿田稔「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考一名嶋城御成書院から福岡城対面所へ」『美術研究』400 pp. 16-54 10.3
- ・綿田稔「福岡城本丸御殿の雲谷派障子絵について」企画情報部研究会 企画情報部研究会室 09.4.22
- ・パネル展示「X線透過による仏像の調査・研究」東京文化財研究所エントランスロビー 09.9～10.2
- ・綿田稔・江村知子・土屋貴裕「ポートランド美術館所蔵作品調査報告」企画情報部研究会 企画情報部研究会室 10.3.24

研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷純、皿井舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）